

Challenge even with corona.



STRONG COMPANY

“チャンスをつかむ
野生の勘。”

株式会社 兼建

●代表者 / 兼重 繭史

本社 / 〒803-0274 北九州市小倉南区長尾 1-9-31

電話 / 093-451-9000

設立 / 2011年2月

業種 / プラント工事 (重量物・解体・配管・足場・他)、メンテナンス

URL / <http://www.kitakyusyu-kaneken.jp/>

各種プラントの 建設・解体で実績を構築

株式会社兼建は、鉄骨葺、重量葺、足場工事、配管、各種溶接などの特殊技術を駆使して、プラントの建設・解体工事を一手に引き受けている。

法人化から10年を迎えたプロフェッショナル集団には、他社が技術的、あるいは納期の問題で手を出せない仕事の打診が続々と入ってくる。また、M&A情報も次々に寄せられ、ここ数年でグループ化した(株)フクダテクノス(内装工事業)、(株)兼機



(一般産業用機械製造)、昨年新設した(株)IRANK(内装工事業)との連携により業績は確実に拡大した。経験を着実に重ね、さらに新たな仕事を打診される好循環が生まれている。

そして今、新たに(株)東勢工業(北九州市八幡西区)をM&Aすることが決定した。今後、同社の信頼と実績は一層盤石なものになるだろう。

多様な専門性を生かした 柔軟な対応力が持ち味

「柔軟な対応力がないと仕事は来ないし、経営の視点で物事を考えないと生き残れません」と兼重繭史社長は語る。

高校卒業後、葺の世界で職人になり21歳で独立。仲間と一緒に安い工賃でどんどん仕事をこなし、しかし、気づけば事業は破綻。ひどく落ち込んで2年間まったく仕事ができなかった。それでも息子の友達が「葺の仕事がしたい」と頼ってきて、もう一度立ち上がる気になった。千葉の現場で懸命に働き、1年

で1000万円を返済。ようやく「経営」の真の意味を理解する。5年かけて負債をほぼ返済。帰福して再出発し、10年が過ぎた。

即断即決は、この業界では絶対だ。「迷った10分間」で、他社へ仕事回ってしまう。新たな分野の仕事にも、培った技術とノウハウを駆使してひるむことなく挑戦する。スペシャリストにとどまらず、多様な専門性を生かして総合的に判断する、ジェネラリストとしての感性と視点を大切にしている。

次代の北九州への思い

ものづくりの街・北九州において、プラントの建設・解体はなくてはならない仕事である。だが近年では大規模工場の移転や閉鎖で、業界全体の需要は減っている。

淘汰ではなく統合というスタンスで連携しなければ生き残れない時代だ。だから、効果的なM&Aで強固な連携を図ること、事業の基盤を再構築したいと、兼重社長は考えている。

「うち自体は安定していますし、私は50代で現場を退いたら、若手の育成に力を入れたい。北九州に知恵と気骨のある若手経営者を増やしたいですね」

兼重社長が伝えたいのは、技術や知識だけではなく、経営者としての知恵と感性だ。物事の見方、感じ方、考え方。そして長期的・複眼的な判断力。がむしゃらさだけではダメなのは、自分が一番よくわかっている。

「どんなに小さな所帯でも、経営者は先頭で向かい風を浴びる立場。先々の風向きを予見して風に乗る、野生の勘みみたいなものを磨き続けなければなりません」

事業は成功し、物質的な豊かさや、信用、信頼も手に入れた。個人的な欲望が満たされた今、意識は「公」に向いている。

「北九州の役に立ちたいですね。若い人が元気に街を支える。そんな街にしたい。若手の育成でその一端が担えたら、こんな幸せなことはないと思っています」

兼重社長の新たなステージが幕を開ける。その展開から目が離せない。